

水土里情報活用ニュース・レター

第 139 号

2020/3

目 次

1. 水土里情報を活用した市町村の農業水利施設管理体制図の作成について（秋田県） …… 1
2. 農業水利施設保全管理システムの取り組みについて紹介します（栃木県） …… 3
3. 人・農地プラン実質化に向けた図面作成について紹介します（福井県） …… 5
4. 水土里情報と各種公開データを活用した地域分析について（広島県） …… 7
5. 水土里情報システムとUAV3D点群データの活用例について紹介します（大分県） …… 9

■お問い合わせ先（全体）

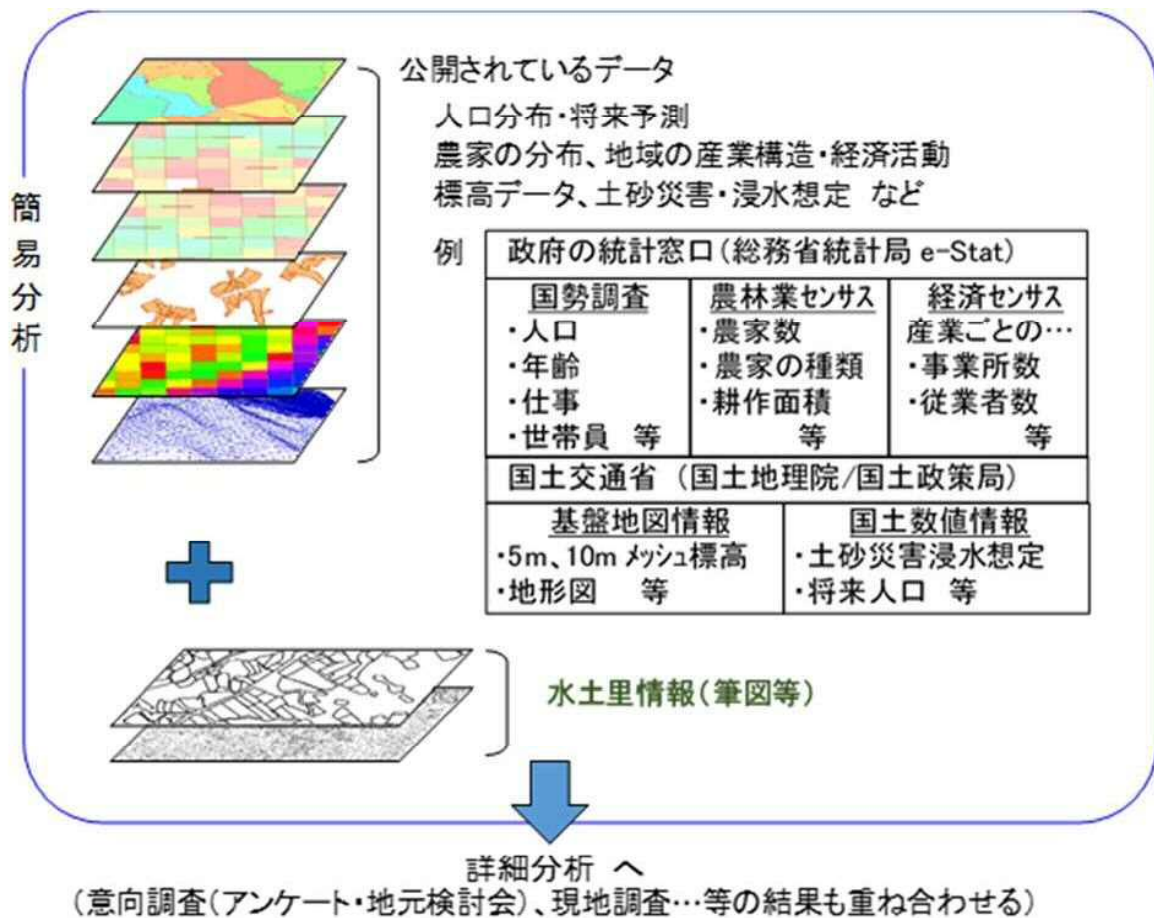
農村振興局整備部設計課計画調整室 長期計画班 三田村、北條（電話番号）03-6744-2201

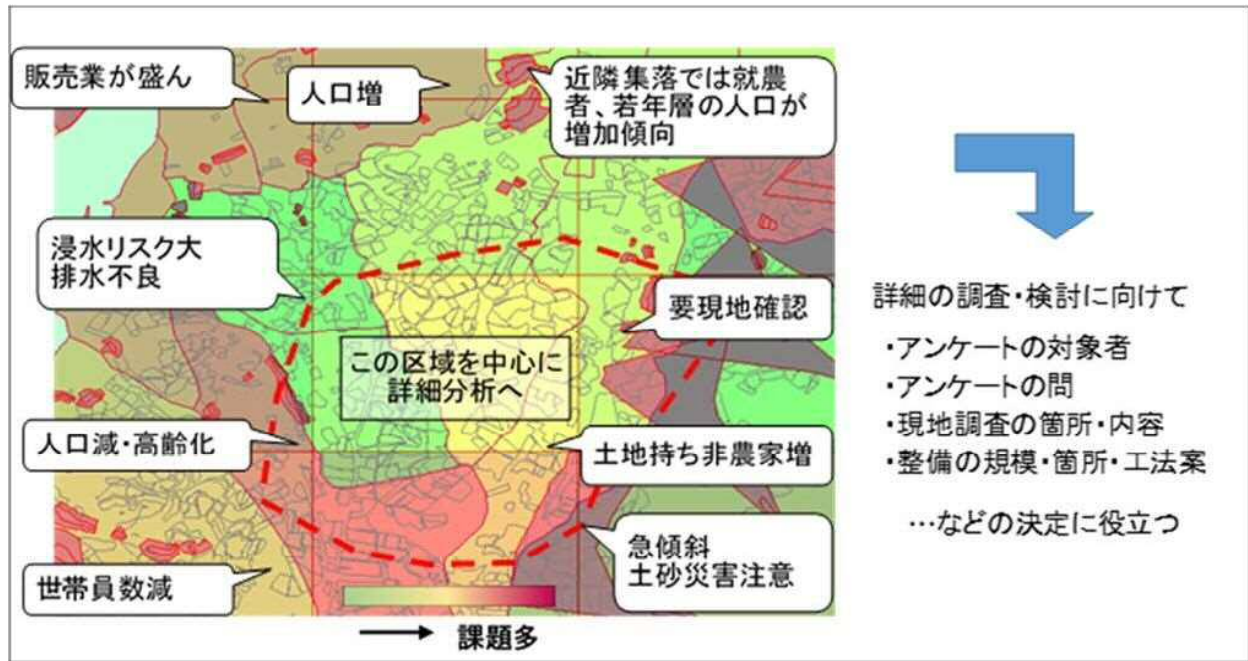
今回紹介する団体：水土里ネットひろしま

取組概要

内容： 総務省や国土交通省等が無償で提供している各種データと水土里情報システムに登録している農地筆図等を重ね合わせることで、対象地域における将来の人口予測などを可視化することができ、将来の地域営農ビジョン等作成の検討資料として活用したものの。

- 経緯：**
- ① 営農形態の変化等により、営農方針を見直すケースが今後増えると予想されるが、見直しに向けた現状把握が困難であった。
 - ② 島嶼部や中山間地域は地形条件等から営農する上での課題等が複雑化している傾向があるため、営農に関する課題の抽出、分析が難しく、調査に入るまで時間を要していた。
 - ③ 事業を実施前の調査に要する予算の確保が厳しくなっていることもあり、様々な地域特性に対応でき、地域の営農状況及び将来の見通しを安価で簡易的に把握できる手法を検討する必要が生じた。





取組による効果

公開されている「人口分布・将来予測（国勢調査）」データと「土砂災害浸水想定（国土数値情報）」データを重ね合わせることで、対象地域の将来人口等の状況が可視化され防災事業等の優先順の検討に活用ができる。

また、公開されている様々なデータを組み合わせることで、一部の地域に限定せず広域的な分析が可能であり、この分析結果を参考に将来の営農ビジョン作成への活用が期待される。

今後の活用予定

多くの地域で施設の老朽化が進んでおり更新の時期を迎えている。施設の更新をきっかけに営農ビジョンを見直す機会が増えることが想定されることから、見直しの初期段階での地域の現状分析に活用していく。

今後、各地域の事例を積み重ね、分析手法や支援ツールの整備を行うことで、より簡単に、より早く地域の分析が行えるように改良していく。

GISシステムのバージョン情報

GIS エンジン：水土里 Maps ver7.1

■お問い合わせ先（全体）

広島県土地改良事業団体連合会 技術支援課 082-502-7475